出征した梵鐘と代用の鳴らない鐘

金属類回収令

日中戦争が全面化した昭和12年（1937）8月、第一次近衛内閣は「国民精神総動員実施要綱」を決定し、10月には国民を精神的に戦争協力へ動員していく国民精神総動員運動が開始されました。この運動は、当初は儀式や行事を通して日本精神や敬神思想を発揚することが中心でしたが、戦争の長期化に伴い、次第に早朝の神社参拝や勤労奉仕、一汁一菜や禁酒禁煙など国民生活への規制も求められるようになっていきました。

そうした中、昭和16年（1941）に公布されたのが「金属類回収令」です。この勅令（ちょくれい）は、武器生産に必要な金属資源の不足を補うため、官民所有の金属類の回収を行う目的で制定され、昭和20年には回収対象にアルミニウムを追加する改正が行われました。

集められた梵鐘（ぼんしょう）

しかし、一般の国民が供出できる金属類は、鍋、釜、火鉢などのわずかなもので、到底、武器生産で不足する量を補えるものではありませんでした。そこで、各地で集められたのが学校にある二宮金次郎や地域の偉人の銅像、燈籠（とうろう）、橋の鉄製欄干（らんかん）、そして寺院の梵鐘や仏像などでした。

市内には、集められた梵鐘とそれを見送る住職が写った昭和17年（1942）12月撮影の複数の古写真が残されていて、多くの寺院で梵鐘の供出が行われたことがわかります。また昭和19年（1944）に旧今津町役場で書かれた行政文書の中には、町長の演述要旨として「金属回収ハ（中略）充分善処サレンコトヲ希望ス」という一文があり、町をあげてこの国策に協力をしていたようすもうかがわれます。

マキノ町（百瀬村）で集められた梵鐘
〔昭和17年12月８日・石井田勘二氏撮影〕

コンクリート製の梵鐘

梵鐘が取り外された鐘楼（しょうろう）は安定感を欠くこととなり、多くの寺院で倒壊を防ぐための重しとなる代用のコンクリート製の鐘が造られました。出征してしまった青銅の梵鐘の代わりとして扱われたものと思われますが、戦争が終わり、梵鐘が新調されると不用品としてその多くが処分されました。

マキノ町蛭口の称名寺には、現在では見ることの少なくなった代用品のコンクリート製の鐘が実際に鐘楼に釣られて残されています。これには「南無阿弥陀仏」の文字や造られた年代等が刻まれ、実際の鐘と見間違えるような姿を見せています。また、今津町今津の西福寺の鐘楼脇にも、戦時中に代用品として造られたコンクリート鐘が保存されています。鳴ることのない鐘が戦争中の悲しい出来事を今の私たちに伝えています。

称名寺（蛭口）のコンクリート製梵鐘

問 文化財課 ☎（25）8559

編集雑感

今月号は今津ヴォーリズ資料館に表紙と特集１に撮影協力をいただきました。

重厚感のある外観からは想像もできないくらい屋内は明るく、驚くことに窓から差し込む光だけで、雰囲気のある素敵な写真を撮ることができたのです！この光のまわりの良さもヴォーリズ建築の魅力のひとつなのかなと思いました。ぜひ皆さんも「まちのコイン」アプリをインストールして今津ヴォーリズ資料館へ！（Y）

広報たかしま 令和５年 8月号 No.283
発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565番地
☎0740（25）8000㈹
https://www.city.takashima.lg.jp
t-info@city.takashima.lg.jp

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用。